

特 別 活 動

1 指導計画の作成と内容の取扱い

各学校においては、次の事項を踏まえて特別活動の全体計画や年間指導計画を作成する必要がある。

- 学校の創意工夫を生かし、ホームルームや学校、地域の実態、生徒の発達の段階などを考慮すること。
- 内容相互及び各教科・科目、総合的な探究の時間などの指導との関連を図り、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。特に社会において自立的に生きることができるようにするため、社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方の指導が行われるようにすること。
- 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。その際、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験的な活動や就業体験活動などの勤労に関わる体験的な活動の機会をできるだけ取り入れること。

次の(1)～(3)に各活動及び学校行事における授業時数等の留意点や年間指導計画の例等を示す。

(1) ホームルーム活動

ア 授業時数等

ホームルーム活動に充てる標準授業時数について「原則として、年間35単位時間以上とするものとする。」と示されている。これは、人間としての在り方生き方に関する教育において中核的な役割を果たすことが期待されているホームルーム活動については、年間35単位時間という授業時数を最低限確保すべきことを定めるとともに、ホームルーム活動の充実を図るため、さらに必要に応じて年間35単位時間を超えて授業時数を配当するよう定めたものである。

また、ホームルーム活動については、少なくとも年間35週以上にわたって毎週実施することが明確に示されている。これは、ホームルーム活動が、生徒の、ホームルームや学校生活への適応やよりよい人間関係の形成、健全な生活態度の育成などに資する活動であり、このねらいを達成するためには、教師と生徒の人間関係と信頼関係を築く場や機会を十分に確保する必要があるからである。

定時制の課程及び通信制の課程においては、特別の事情がある場合には、ホームルーム活動及び生徒会活動の内容の一部を行わないものとするができる。学校においては、ホームルーム活動に関する今回の改訂の趣旨を踏まえて、地域や生徒の実態等を考慮しながら、ホームルーム活動の授業時数又は内容を適切に定める必要がある。

イ 年間指導計画の作成

ホームルーム活動は、入学から卒業までの発達の段階を踏まえ、系統立てて指導するとともに、年間を通して計画的に指導する必要があることから、まず、学校として入学から卒業までを見通した各学年の年間指導計画を作成することが必要である。

ウ 年間指導計画例（1学年）

【ホームルーム活動の目標】

ホームルームや学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して資質・能力を育成することを目指す。

学期	月	活動内容	指導方法	予定 時数	育成を目指す資質・能力	項目	三つの視点		
							A	B	C
前期	4	自己紹介	自己紹介カード を活用しHR担 任より指導	1	多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合 ったり協力し合って人間関係を築こうとする力	(2)ア	◎	○	
		集団討論 (第1回)	学校祭に向け でのHR討論	1	自他のよさや可能性を発揮しながら、主体的に 集団や課題について理解し、合意形成を図って よりよい解決策を決め、それに取り組む力	(1)ウ	○	◎	○
	5	進路学習	進路のしおり を活用しHR 担任より指導	1	将来の社会的・職業的な自立と現在の学習がど のように関わるかということを理解し、今、自 分にできることを明確にし、実践していく力	(3)ウ、エ		○	◎

※ ◎～特に重要な視点、○～重要な視点

※ 「項目」は、次のとおり学習指導要領に示されているホームルーム活動の内容である。

- (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
 - ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
 - イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚
 - ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己成長及び健康安全
 - ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
 - イ 男女相互の理解と協力
 - ウ 国際理解と国際交流の推進
 - エ 青年期の悩みや課題とその解決
 - オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
 - ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解
 - イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用
 - ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
 - エ 主体的な進路の選択決定と将来設計

特別活動において育成する資質・能力における要素として重要な三つの視点は、「人間関係形成」を「A」、「社会参画」を「B」、「自己実現」を「C」として示している。

(2) 生徒会活動

ア 授業時数等

生徒会活動においては、生徒の異年齢集団による自発的、自治的な活動を一層活発に行えるようにするため、ホームルーム活動との関連も図りつつ、活動に必要な場や機会について年間を通じて計画的に確保するよう留意し、学校全体、あるいは学年などを単位とした適切な指導計画と授業時数を充てることが大切であり、学校の創意工夫が望まれる。

また、生徒会役員選挙等では、選挙管理規則の周知、立候補に関する事務処理、選挙活動、立会演説会、投開票等に必要な時間を適切に充てるなど主権者教育の観点からの工夫が必要である。

イ 年間指導計画の作成

生徒会活動の指導計画の作成に当たっては、各組織別の指導の方針を明確にするとともに、生徒が作成する各組織の活動計画を十分に配慮に入れて、全教職員の共通理解と協力を基盤に指導計画を作成することが大切である。また、生徒の発達的な特徴を捉え、生徒の希望や関心を知り、それに応じた指導計画を作成するとともに、必要に応じて、校内の活動のみでなく、他校との相互交流を図ったり、地域社会との連携を深めたりするなど、校外での活動への広がりを図る指導計画の作成に留意することが望まれる。

ウ 年間指導計画例

【生徒会活動の目標】									
異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、資質・能力を育成することを目指す。									
学期	月	活動内容	活動場所	予定時数	育成を目指す資質・能力	項目	三つの視点		
							A	B	C
前期	4	対面式	体育館	1	新たな環境のもとで人間関係を築こうとする力	(1), (2)	◎	○	
		部局同好会紹介	体育館	2	集団の形成者として、積極的に学校生活の充実と向上に参画しようとする態度	(1)		○	◎
		校外清掃活動	学校周辺	1	社会の形成者としてよりよい社会づくりに参画しようとする態度	(3)		◎	
	5	地区大会壮行会	体育館	1	学校行事の意義や、全校生徒で協働を図る仕組みを理解する力	(1), (2)	◎	○	
		生徒総会	体育館	1	集団の形成者として、積極的に学校生活の充実と向上に参画しようとする態度	(1)		◎	
		学校祭原案作成	HR教室	1	課題解決の方法や役割の決定、その実践に取り組む力	(1), (2)		◎	○

※ ◎～特に重要な視点、○～重要な視点

※ 「項目」は、次のとおり学習指導要領に示されている生徒会活動の内容である。

(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2) 学校行事への協力

(3) ボランティア活動などの社会参画

※ 三つの視点
人間関係形成「A」
社会参画「B」
自己実現「C」

(3) 学校行事

ア 授業時数等

学校行事は、体験的な活動を通して、特別活動の目標を達成していく学校全体の教育活動であることから、各教科・科目等との関連も図りつつ、各学校が創意工夫を發揮して適切な授業時数を充てることが必要である。

なお、学校行事については、勤労生産・奉仕的行事や旅行・集団宿泊的行事などで様々な体験活動が取り組まれている。例えば、就業体験活動などが、総合的な探究の時間において、問題の解決や探究活動といった自己の生き方を考える学習活動として行われる場合があるが、その際は、特別活動と総合的な探究の時間のそれぞれの特質を生かし、活動のねらいを明確にした上で、各学校の教育の全体像を踏まえて両者の活動を有機的に関連させ、より教育的意義の高い教育活動を構築することが必要である。

イ 年間指導計画の作成

学校行事の指導計画には、年間の学校行事全体にわたる年間指導計画と個々の行事についてのより具体的な個別の行事指導計画があるが、通常、年間指導計画では、実施予定の行事名、指導時数、参加の対象、育成を目指す資質・能力、他の教育活動との関連などを記載し、個別の行事指導計画では、内容（事前、当日、事後）、指導上の留意事項、役割分担などを明確にし、実施する上での具体的な計画とする必要がある。

学校行事の実施に当たっては、学校の全教職員が行事の目標や指導の重点などを共通理解し、一体となって指導に当たらなくてはならないことから、全教職員が関わって入学から卒業までを見通した適切な年間指導計画を作成し、学校全体の協力的な指導体制を確立して、組織的に指導に当たる必要がある。

ウ 年間指導計画例

【学校行事の目標】										
全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、資質・能力を育成することを目指す。										
学期	月	行事名	予定時数	対象学年	育成を目指す資質・能力	他の教育活動との関連	項目	三つの視点		
								A	B	C
前期	4	始業式	1	2・3	厳粛な場における儀礼やマナー等の規律を理解する力	ホームルームでの十分な事前指導	(1)	◎	○	
		入学式	2	1	行事を節目として新たな生活への意欲につなげようとする態度	ホームルームでの十分な事前指導	(1)	○		◎
		健康診断	2	全	心身の健全な発達や健康の保持増進に努めようとする態度	教科・科目（保健）	(3)			○
		宿泊研修	18	1	集団生活の在り方や公衆道徳などを理解する力	ホームルームでの十分な事前指導	(4)	◎		
	5	避難訓練	2	全	防災に関する課題と解決策について考える力	ホームルームでの十分な事前指導	(3)		○	
地域ボランティア		3	全	多様な他者と共に考え、協働して実践する力	生徒会活動	(5)	○	◎		

※ ◎～特に重要な視点、○～重要な視点

※ 「項目」は、次のとおり学習指導要領に示されている学校行事の内容である。

(1) 儀式的行事	(2) 文化的行事	(3) 健康安全・体育的行事
(4) 旅行・集団宿泊的行事	(5) 勤労生産・奉仕的行事	

※ 三つの視点
人間関係形成「A」
社会参画「B」
自己実現「C」

2 実践事例

学習指導要領の内容の取扱いについての配慮事項において、ホームルーム活動及び生徒会活動の指導については、「指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにすること。その際、よりよい生活を築くために自分たちできまりをつくって守る活動などを充実するよう工夫すること」と示されている。次に示した生徒会活動の展開例では、話し合いや合意形成を通して、他者の意見も尊重できる姿勢を育成することができるよう工夫されている。

○ 生徒会活動の展開例		
活 動	いじめの未然防止に向けての意見交流とルールづくり	
本時の目標	1 嫌な気持ちにさせる言動について考え、いじめの未然防止につなげる 2 他学年との意見交流を通して、様々な考えに触れ見地を広げる 3 「FELOR」によるコミュニケーション技法を身に付ける ※Facing（顔を向ける）、eye-contact（目を合わせる）、Lean（体を傾ける）、Open（心を開く）、Relax（リラックス） 4 主体的に集団のルールをつくり、守ることについて自覚を高める	
育成を目指す資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で活動する上での様々な困難を乗り越えるためには何が必要になるのかを理解する力 ・多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりしながら人間関係を築こうとする力 ・主体的に集団のルールをつくり、守っていこうとする態度 	
本時の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のアサーション度についての理解 ・人を傷つけない言い方についての事例研究と意見交換 ・上手な断り方についての事例研究と意見交換 ・いじめを生みださないためのルールづくり 	
展 開	○日 時 令和〇年〇月〇日（△）〇校時～〇校時（2時間）	
	○場 所 体育館	
	○対象生徒 1～3学年全員	
	○テ ー マ いじめの未然防止に向けての意見交流とルールづくり	
時間	活動内容	留意事項
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・「いじめ根絶討論会」のねらいとルールを説明 ・アイスブレイク 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部が全て運営する ・ルールとして「悪ふざけをしない」、「発表や意見を否定しない」、「リーダーの指示に従う」
展開	活動①「自分のアサーション度をチェックしよう」 活動②「自分も相手も傷つかない言い方を考えよう」 事例1『悪口を聞かされたとき』 事例2『上手な断り方』 活動③「いじめを生みださないためのルールを考えよう」	活動①個人でチェックリストに取り組む。 活動②生徒会執行部によるロールプレイで例を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・どのような気持ちになるか考え、適切な断り方を考える。 ・発表はロールプレイで行う。 活動③ロールプレイで感じたことを踏まえて必要なルールについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・学年毎に意見を発表する。 ・各学年の意見を踏まえ、話し合いによって本校のルールを決める。
まとめ	○感想・振り返り 活動①「本日の流れと、全校生徒で決めたルールの確認」 活動②「ペアでの振り返りと発表」	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の活動を振り返り、自分たちで決めたルールを守るという自覚を高める。 ・今回学んだことを普段のどのような場面で生かせるか話し合い、発表する。

Topic 高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」

高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」は、国際交流に興味・関心があり、大学等に進学し学術研究に意欲的に取り組もうとする道立高等学校等の生徒を対象に、道内大学の留学生との相互交流や講義等への参加を通して、国際理解の促進と進学意欲の向上を図り、将来における本道のグローバル人材の育成を目的として、平成30年度から実施されている事業です。

本事業は、「道立高等学校等の生徒の道内大学への派遣」と「留学生の道立高等学校等への派遣」という2つのプログラムから成り立っており、昨年度までの2年間で、道立高等学校22校から生徒57名が連携先の北海道大学に、北海道大学からは留学生18名が道立高等学校13校に派遣されました。

留学生が派遣された高校では、留学生による母国紹介や生徒との意見交換など、生徒が国際理解や国際交流の在り方についての考えを深める機会が設定され、ホームルーム活動の内容の充実が図られました。

◇ 道立高等学校の生徒の道内大学への派遣・交流事業

- 期 間：令和元年（2019年）10月23日～10月25日
- 会 場：北海道大学
- 参加者：29名（参加校数15校）
- 内 容：キャンパスツアー、留学経験者による体験談、大学院生による研究内容の発表、大学の多文化交流科目への参加、参加者によるグループワーク、研究室訪問等



【留学経験者による体験談】

◇ 留学生の道立高等学校への派遣・交流事業

- 期 間：令和元年（2019年）9月11日～9月27日のうち連続する3日間以内
- 受入校：10校
- 留学生：12名（中国5名、台湾2名、アメリカ、インド、韓国、シンガポール、フィリピン各1名）
- 内 容：自己紹介、母国紹介、大学生活の紹介、大学での研究に関するプレゼンテーション、授業サポート（外国語科等）、授業参加（家庭科、芸術科（書道））など



【自己紹介・母国紹介】

○留学生の声

- ・日本は島国なので、他国の自分とは異なる人々の暮らしについて理解を深め、日本人以外の人々との交流を促すことは大切だと思う。（アメリカ人留学生）
- ・自分の母国に興味を持っている高校生が多いことを知り、今後、日本人に気軽に話しかけることができる気がした。（韓国人留学生）



【授業サポート】

<参考>

高等学校学習指導要領 第5章第2

〔ホームルーム活動〕2「内容」(2)ウ 国際理解と国際交流の推進

我が国と他国の文化や生活習慣などについて理解し、よりよい交流の在り方を考えるなど、共に尊重し合い、主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を探求しようとする。

<掲載URL> <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/kokusai/studyabroad.htm>